

## 令和6年度 授業改善推進プラン (小学校・専科教員用)

福生市立福生第一小学校

図画工作科	
児童の実態 ※必要に応じて学年ごとに記載	○活動に対して熱心な児童が多く、興味をもって真剣に取り組んでいる。(全学年) ○自分の表したいことを表現するために、既習の用具や材料を用いようとする児童が多い。(全学年) ○色や形に注目し、身近なものに見立てることで想像を広げ、自分の表したいことを見付けられる児童が多い。(低・中学年) ①計画性をもって進めていくことを苦手とする児童がいる。(中・高学年) ②思いついた形や色をすぐに実行するのは好きだが、現段階の作品の状態をより良くしようとする気持ちや工夫する気持ちが少ない。(中・高学年) ③製作途中で自分が思い浮かべていた表現と異なってしまった場合に、自分の表したいことに合わせて工夫しようとするのが苦手な児童が多い。(全学年) ④完成予想図を思い浮かべて活動に取り組める児童が少ない。(低・中学年)
児童の実態を踏まえた 授業改善の取組 ※必要に応じて学年ごとに記載	①板書や導入で活動の流れを伝え、学習の見通しがもてるようにする。また、個別の声掛けやタイマーを使用するなどして、時間配分を意識させる工夫をする。 ②製作の途中で児童の作品を紹介し、友達のアイデアに触れる機会をつくる。自分や友達の作品のよさを知り、表し方を工夫しようとする意識を高める。 ③既習事項の復習を継続的に行うことで、児童が様々な表現方法を身に付け、自分の表したいことに合わせて表現方法を選択できるようにする。 ④導入で参考作品を複数提示し、完成予想図のイメージを明確にするとともに、様々な表現方法に触れられるようにする。